

福竜丸だより

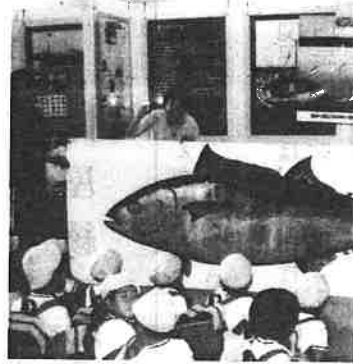


都立・第五福竜丸展示館 ニュース

発行
(財)第五福竜丸平和協会
連絡所
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

子らの瞳と第五福竜丸に平和をかみしめて

吉住 元



京浜東北線の終点、大宮駅の一つ手前に、三年前さいたま新都心駅ができ、いまだに町は工事中という様子を呈している。新駅から歩いて数分のところに私達の平和の杜学園・むつみ幼稚園がある。私達は九月一二日大型バス三台を連ねて夢の島に向かった。その車中では、

♪大型バスにのってます♪
の大合唱が流れる。三歳、四歳、五歳の幼稚園の一行で、一五〇名の園児は夢の島という実に魅力的な名称のところにある第五福竜丸展示館をめざしている。動物園もアスレチックのある公園も、車窓

から見えるディズニーランドも通り越し、二時間後に到着した。実に広大な夢の島
前夜わくわくして寝付けなかったり、早起きしすぎた園児達です。に少々バテ気味である。さらに残暑を思わせる陽光に照らされ「先生まだつかないの」と言いながら歩いている。途中職員が「下見のときはどっちへ行ったのかしら」と思わず迷ってしまうほど広い。やっとたどりついた大きな建物に子供達はとても嬉しいだ。館内を進みながら職員の方が「意外と今、マグロの話がうけているんです」と笑顔で言われるので、大きなマグロの絵を前にする。先ほどはしゃいでいた子供達もなにやら神秘的な顔をしている。何しろ噛み砕いてのお話なので子供達は真剣に聞いていた。この古い船がなんなのかということの状況も理解しようとして、質問も出た。本来なら海に浮かび、波を切り裂いて走っているはずの木造船の底は、妙にでかいし、不思議

だ。この異常とも思える光景も園児たちはどのように感じたのだろうか。園ではベープサートで「とびうおのぼうや」はびょうきです」を観せており、あのことと今のこのことがつながるかどうかが。原水爆禁止と平和のねがい
さて、むつみ幼稚園の創立者である私の父は第一回原水爆禁止世界大会(一九五五年八月六日・広島)の若葉マークのバッチを園章にした人物である。父母の参観の時など、あらゆる機会を通じてどのつまるところ「平和と民主主義の問題」を大声で演説していた。大量に購入した若葉マークと平和ハガキ、そして「新しい憲法のはなし」は我が家のいたるところを常に占領していた。家族は困った時もあったが、ひたすら運動の重要性を訴え、暴走もしたが実に無邪気な父であった。
晩年、父は卒園式の時に、日本国憲法の前文を暗誦し驚かせたものだった。幼児教育に情熱を傾けるとともに、子供達を取り巻く地域の環境を守ることや、核のない平和な世界を築くために、若者に勝るとも劣らない行動力と気力を亡くなる間際まで持ち続けた人で

もあった。父は一九九九年一月に肺炎のために、八五歳で死去した。
船のねがいを心に
マグロ塚を覗いて回り木陰でお弁当を食べ、シートの上でやってくる皆さんに大騒ぎした子供達。目の前のマリナーのヨットの人たちが手を振ってくれたのもうれしかった。
この子供達が、大きな建物の中の「第五福竜丸」のことをいつの日か思い、この状況に至った歴史を学び、あの頃、園で歌った皆さんの歌はすべて人類愛や平和につながるものであり、仲間の大切さであり、友情と命の重みがあったと思うかもしれない。この船はそれを教えてくれているような気がする。
「とびうおの…」紙芝居を行っているときに、私は一九七八年五月の第一回国連軍縮総会の日本代表団がニューヨーク市内を行進している写真を探すために館内を一巡した。紙の兜をかぶり手を振りながら満面笑顔で歩く父を見いだすことはできなかった。
(よしずみ げん/平和の杜学園・むつみ幼稚園 理事長)

第五福竜丸からの呼びかけ

—非戦平和のねがい—

富賀見 智 明

ある日あるテレビのニュース番組で第五福竜丸が遭遇した事件を知りました。「水爆実験」「死の灰」「マグロ塚」のことなど、私の知らなかったことを知らせてくれました。そんな被爆船が私の住んでいる近くに原水爆の証言者として展示してあるなんて。

そこで、早速「夢の島」へ向かいました。最初に飛び込んだのが、福竜丸のエンジン、その奥に久保山愛吉さんの記念碑、マグロ塚などがありました。その久保山愛吉さんの記念碑に「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」と刻まれています。原爆は、破壊するともにも、残った人々の心身までもいやすこともできない傷跡を残しました。しかしながら、今なお原水爆の実験をし、核をちらつかせながら外交をしていることに改めて憤りを感じます。

今年で戦後五十七年を迎えました。その間、冷戦構造が崩壊し、まだ記憶に新しい湾岸戦争から一〇年が経過しました。しかし戦争のない憎しみのない心豊かな時代がきたとは言いがたく、二一世紀を迎えた今なお宗教、土地や鉱物の問題、長い戦争で肉親を奪われた憎しみあいが続

き、壊れた戦車、破壊つくされた町、立ち入り禁止の地雷マークがたくさんある町へと続く道の映像を見ます。
昨年、アメリカで同時多発テロが惹起しました。その影響で次々とテロ事件が世界各国で多発しています。アメリカブッシュ大統領は新たな対テロ戦争が始まったことを「This is the first war in the 21st Century」と言っていました。アメリカは湾岸戦争を「世界の警察」と称し、今回は「テロ撲滅」と報復戦争を正義として行っていますが、アメリカの核問題専門誌では核時計の針が二分進み、七分前になったそうです。「核時計」とは、核戦争が発生する日を午前零時と見立て、どれだけ時間が残されているかを示すもの。

このような世界情勢の中、築地本願寺において「非戦平和のねがい」いま私たちの問いかけというテーマで、先の戦争における浄土真宗本願寺派の歴史的事実に関するパネル展示、原水爆と第五福竜丸のパネル展示、地雷に関するパネルと模型の展示を一週間にわたり開催しました(九月一三日〜一九日)。仏教団として戦争を賛美し、浄土真宗本願寺が

私達に、真理の智慧を持って仏教を残してくださいました「ブツタ(釈尊)」は、『この世において、もろもろの怨みは怨みかえすことによつて、けつして静まらない。しかるに、もろもろの怨みは怨みかえさないことで静まる。これは永遠の真理である』(法句経)と私たちに呼びかけてくださいます。浄土真宗本願寺派の宗祖親鸞聖人は『さるべき業縁のもようおさば、いかなるふるまいもすべし』と私達の根本にある恐ろしい姿を教えてくださいます。

いかに戦争に関わってきたのか、現実の事実の写真にがく然とさせられ、その中の一枚に、仏具を供出し記念写真を撮っているパネルに出遭いました。本来仏具は、浄土往来を願う浄土を荘厳する道具です。その仏具が武器・兵器となつてしまったこと、改めて我々人間の煩惱の恐ろしさに、複雑な心境になりました。
私達に、真理の智慧を持って仏教を残してくださいました「ブツタ(釈尊)」は、『この世において、もろもろの怨みは怨みかえすことによつて、けつして静まらない。しかるに、もろもろの怨みは怨みかえさないことで静まる。これは永遠の真理である』(法句経)と私たちに呼びかけてくださいます。浄土真宗本願寺派の宗祖親鸞聖人は『さるべき業縁のもようおさば、いかなるふるまいもすべし』と私達の根本にある恐ろしい姿を教えてくださいます。
ですから我々は、すべての「いのち」を慈しみ尊ぶ仏教の精神を身につけ、生きとし生けるすべてのものの「いのち」のつながりを確かめ、非戦平和、環境問題について積極的に一人ひとりが気づき実践することが、今一番大切な問題であり課題でもありましょう。
(ふかみ ともあき/浄土真宗本願寺派本願寺築地別院(築地本願寺)東京教区教務所)

サマルカンド平和と連帯の国際博物館 アナトリー館長に聞く

一〇月一四日、ウズベキスタン共和国のサマルカンドにある平和と連帯の国際博物館館長のアナトリー・イオネソフさんが、第五福竜丸展示館を訪れました。アナトリーさんは、日本のエスペランティスト大会での講演のために来日し、その後各地の平和博物館の見学や市民団体などと交流して一ヶ月間滞在しています。



アナトリーさんと大石さん

この日は、ちょうど元乗組員の大石又七さんが、千葉県松戸市の平和サークルの方々に体験を語る会があり、アナトリーさんも飛び入り参加、同行のエスペラント学会の方の通訳で挨拶しました。会

のあと若い世代に伝える活動などについて双方のとりくみを交流しお話を聞きました。一九日には、アナトリーさんの講演会が横浜市栄区の地球市民かながわプラザで開かれ、ここで、第五福竜丸の写真資料多数を贈ることができました。

平和と連帯の国際博物館とは

ウズベキスタン共和国は、一九九一年に独立しましたが、そのサマルカンドの都市の歴史は大変古く二七〇〇年にも及び、東洋と西洋の交差する地域として発展し、文化遺産の宝庫です。

博物館の創設は一九八六年。その経過は、エスペランティストによる「平和―星への願い」と題した国際博覧会や展覧会の各都市での開催があり、そのなかで平和に関するさまざまな資料が収集され、国際平和年を記念して博物館を開設することになりました。八九年

にはウズベキスタン文化省により「民衆のための博物館」の称号を受けています。

博物館は、ウズベキスタン中央公園の中にあり、土地の提供は無償で市から受け、若干の助成もありますが、公立ではなく、非営利・非政府により運営されています。さまざまなプロジェクトをおこない募金を集めています。

ここは、戦争の恐ろしさを伝えるだけでなく、よりよい世界を創るための希望や勇気を与えること。人びとの相互理解を国際外交と芸術的創造をつうじてひろげていくことを理念としています。

おもな収蔵品とその特徴は、さまざまな交流によって寄せられてきた資料が、中心であることです。それは地球規模で、一〇〇カ国以上から二万点を超え、ポスター、リーフレット、絵画、素描、タペストリー、旗、ペナント、写真、本、新聞、雑誌、バッジ、メダル、切手、スライド、ビデオ、カセット、CD、レコード、パーシングIIやSB二〇ミサイルの一部もあります。

さまざまにとりくみから

博物館ではさまざまなプロジェクトを組んでいます。「子ども国際フェスティバル」というのは、子ども達のための非武装の教育です。「戦争は遊びではありません、ではなぜ戦争のおもちゃであそぶのか」。戦争のおもちゃを持ち寄って、それを平和のおもちゃに交換する活動です。武器をもたないと思う子どもが増えることは素晴らしいことです。

「子ども達、世界を見る眼」のプロジェクトは、世界中の子ども達の描いた絵から世界を理解しようというものです。違う国や世界の人々、異なる文化を知り感じることを子ども達の芸術作品とおしっておこなうものです。

「美は世界を救う」という展覧会は、これまで国内外で開催してきました。自然の美、友情の美、愛情の美、創造の美、国家間の平和の美を表現した作品を飾ってきました。目標は国際アートギャラリーをサマルカンドに設立することです。

また、世界中の「笑顔」を集めるとりくみもしています。自分自身の好きな笑顔、人間だけでなく

(3めん下につづく)

第五福竜丸平和協会評議員

関屋綾子さんを偲ぶ

川崎 昭一郎

関屋綾子さんが一〇月一三日に亡くなられた。享年八七歳でした。

関屋さんとは、原爆犠牲者の三三回忌に当たる一九七七年に行われたNGO被爆問題国際シンポジウムの準備、実施、フォローアップを通じて知り合った。参加者が自分の所属組織にとられすぎる論争になりがちな問題にたいして、つねに正面から意見を述べ、その誠実、明晰、純粹さで同席者を感じさせることがしばしばあった。



八二年の第二回国連軍縮特別総会への宗教者代表団の団長をつとめられたことのある関屋さん

後でご自身の自伝的な随想『一本の樫の木―淀橋の家の人々』を読ませていただき、平和運動における姿勢とご家族に対する態度がよく調和していることを知った。

第五福竜丸平和協会では、七九年より亡くなるまで評議員を務められた。『福竜丸だより』にも八四年四月号に「福竜丸と私たち」、二〇〇一年六月号に「展示館開館二五周年に思う」とそれぞれ題して寄稿されている。

一九七〇年YWCA会長に推挙された機会に、「核否定の思想に立つ」という姿勢をすべての中心精神として「広島・長崎を考える旅」というプログラムを組まれた当時を回想されるとともに、「第五福竜丸のもつ意義が一向に弱まらぬ現代の日々の中で」いま一度その事実を確認し、この船の持つ意味を考えたい、と述べられている。そして「第五福竜丸の語る事実」は絶大です。私たちの責任も絶

大です」と結ばれている。

九四年のビキニ被災事件四〇周年を記念して学士会館で行われたパーティーでは、丸木美術館の館長もされていて、親しくお話しすることができた。

本年六月一〇日、展示館開館記念日に日本青年館で行われた記念の懇談会には息子さんに付き添われて参加された。ビキニ水爆実験被災五〇周年を記念する企画・構想をテーマにした会であった。皆さんの熱心な発言に耳を傾けられていたが、マイクを向けられたさいは、のどを痛めておられると発言を遠慮された。帰り際に「被災五〇周年では私もぜひお役に立ちたい」とかすれ声で述べられたことが今も耳に残っている。

(第五福竜丸平和協会会長)



(2めんからつづく)
動物の笑顔も、送ってくださいというものです。

「平和への署名」と題するプロジェクトは、よりよい世界の創造のために働く人物のメッセージや著作、署名を集めています。すでに数百になつていますが、ヒラリー卿、ツツ司教、ライナス・ポーリング教授、ババロッティ、ホセ・カレーラス、アームストロング船長、クストー、ジェーン・フォンダなどやノーベル賞受賞者も多数います。

第五福竜丸の印象について

ここに水爆実験の被災船の実物があるということは、なによりも素晴らしいと思います。そして、実際に船に乗り体験をした被爆者がここに来て話をするのは、大きなものにも変えがたい、大きなものを伝えていきたいと思います。

これからも第五福竜丸展示館と平和連帯博物館との交流や連絡をすすめていきましょう。国際平和博物館ネットワークなどをつうじて世界とつながっていききたいとねがいます。(文責編集部)